

「生き返ることができる」

エゼキエル書 第37章1節～10節

説教 本庄侑子牧師

ある時、エゼキエルは主に導かれて、枯れた骨の谷に連れてこられました。バビロン捕囚によって祖国が滅んだ時のことでした。エゼキエルが目にしたのは、バビロン捕囚によって殺された人たちの骨ではありませんでした。生きていながらも、カラカラでバラバラになっている自分たちの姿でした。

彼らは祖国だけでなく、「望み」(11節)を失いました。「滅びる」(11節)は切り離されるという言葉です。彼らは、神様から切り離され、他の誰とも繋がっていない孤独を味わっていました。かつて、私たちも戦争や震災によって望みを失い、滅びを味わったことがあります。その後、水道や電気などのライフラインはすっかり復旧しました。ネット社会が発達し、互いに繋がりあう方法も豊かになったはずですが、しかし家族はバラバラなまま、世界もバラバラなまま、みんな離れて孤独です。

主はエゼキエルに言われました。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」(3節) エゼキエルは祭司でした。リーダーとして、これまで様々な方策を立ててきたはずですが、しかしそれらも虚しく、国は木っ端微塵になりました。もうなす術がありません。

エゼキエルは答えました。「主なる神よ、あなたのみがご存知です。」(3節)『生き返ることができます。』とは言いませんでした。神様、私には分かりません。そんな自分の限界を言い表しました。しかし『生き返ることができません。』とも言いませんでした。神様、あなたが願われるのであれば生き返るでしょう。そんな神様への信頼をも言い表しました。

「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」それは、『エゼキエルよ、あなたは私を信じるか。』という、神様の呼びかけの声でした。その声を聞くやいなや、エゼキエルは答えずにはいられなくなりました。「主なる神よ、あなたのみがご存知です。」万策尽きたかに思えた時、神様に呼びかけられたエゼキエルの口からこぼれ出たのは神様への信仰告白でした。

主は続けて言われました。「これらの骨に向かって預言し、彼らに言いなさい。」(4節)骨に向かって預言する(神の言葉を語る)というのは虚しく思えます。しかし、主の言葉が語られていくとき、水道や電気やネット社会よりも強力

な命の力が流れ込み、ライフラインをつないでいきます。語る私たちが無力でも、主の言葉には力があります。無から有を生み出し、死に命を与える力。私たちを、世界を変える力がある。

骨に向かって預言したエゼキエルの前で、新しいことが起きていきました。骨がカタカタと音を立て、互いに近づき、一つになりました。互いを結びつける愛と、すべてを覆う赦しが生まれました。カラカラでバラバラだった互いを一つにしていく主の言葉、それはイエス・キリストです。イエス・キリストが宣べ伝えられる所に、愛と赦しが生まれ、互いに歩み寄り、結び合う奇跡が起こるのです。私たちは、礼拝でその奇跡を繰り返して経験してきました。

礼拝を通し、キリストの愛を受けた者たちは、互いに歩み寄り、愛し合い、赦し合うようになります。それは、お互いを尊重する、という程度のもではありません。キリストの愛と赦しにあやかる世界。主と共に自分の十字架を負い、十字架の死に至るまで謙られたキリストに身を委ねる世界です。教会は、地上に立ち現れるキリストの体。教会に身を置いていると、互いの間を行き交う愛と赦しに触れ、キリストがどのような方かが分かるようになります。

しかし、まだ十分ではありません。主は言われました。「霊に預言せよ。」「そうすれば彼らは生き返る。」(9節)聖霊に向かって祈れということでしょう。聖霊よ、来てください。カラカラでバラバラな私たちに吹き付けてください。

エゼキエルが祈ると、枯れた骨は生き返って自分の足で立ち、非常に大きな集団となりました。集団は英語では「army」。彼らは生き返って自立させられつつも、主の軍勢となりました。主の戦い、人を愛し、赦すための戦いを共に戦い、そのためならば命をも惜しまない集団となったのです。それこそが本当に生きるということ、生き返るということです。

主の言葉を語っていきましょう。枯れた骨よ、あなたは生き返る。絶望の谷よ、あなたは希望の泉となる。万策尽きて低くされるのは、あなたを主の勇者として生き返らせるため。あなたは神の霊の器となる。祈りましょう。霊よ、四方から吹き来たれ。枯れた骨に吹き来たれ。

(記 本庄侑子)